

ヨハネの福音書 第8章 12節

「イエスはまた彼らに語って言われた。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことなく、いのちの光を持つのです。』」

どん底まで落とされ、その底にいる自分を見下す輪が責め立て、大きな壁として立ちはだかります。どん底まで墮ちた自分の過ちを知っている、ぼろきれのように横たわるしかない自分がいます。輪を組んで自分を見下し、糾弾する者たちの裁きは当然です。自分の内、外を覆うのは漆黒の闇でしかありません。

その自分の前に立たれるお方がいます。そのような自分を裁かず、見捨てないお方がいます。そして、言われるのです、「わたしは、世の光です。」闇に覆われる人々の光です。闇にうずくまって、立ち上がることの出来ない人々への光です。裁かれる者、裁く者、どちらにも必要な光が立っています。

光がわたし、と語りかけてくださるのは救いです。一瞬の灯ではありません。生涯の光となります。永遠の光です。その光についてゆくことができます。その光に従うとき、闇は闇でなくなります。たとえ闇が襲っても光があります。その光はいのちです。